

組織運営に関する【中長期基本計画】

(Connect to the future 2020 – 2030)



一般社団法人日本**FID**バスケットボール連盟

JAPAN **B**ASKETBALL **F**EDERATION **f**or Players with an **I**ntellectual **D**isability

< はじめに >

日本**FID**バスケットボール連盟は2017年5月に一般社団法人として新たに活動を開始しました。設立から3年が経過しようとする今日、当連盟を取り巻く環境は著しく変化を続けています。

本年開催の**パラリンピック**東京大会は、障がい者スポーツの世界最高峰の大会であり、国の様々な施策により、障がい者を社会全体で支え合い、応援をするという**ムーブメント**に包まれています。協賛企業も増加し、**障がい者雇用率の向上**や**サポート体制の拡充**にも繋がっています。また、2018年4月に公益社団法人日本バスケットボール協会が障がい者バスケットボールを統括する組織として**日本障がい者バスケットボール連盟**を立ち上げ、協会の加盟団体として今後の活動をサポートしていく体制を構築しています。

このように様々な支援体制が構築される中、当連盟としての理念を基に、今後の10年間の中期及び長期計画を策定し、取り組みを進めてまいります。

会長 小嶋 隆司

< 理念 >

バスケットボール競技を通じて知的障がい者の
社会参加の促進や心身の健全な発達を促し、
共生社会の実現に貢献する。

1

< 当連盟の概況 >



< 組織の概要 >

名称

一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟

JAPAN BASKETBALL FEDERATION

for Players with an Intellectual Disability

事務局

〒231-0831

神奈川県横浜市中区本牧原11-1-807

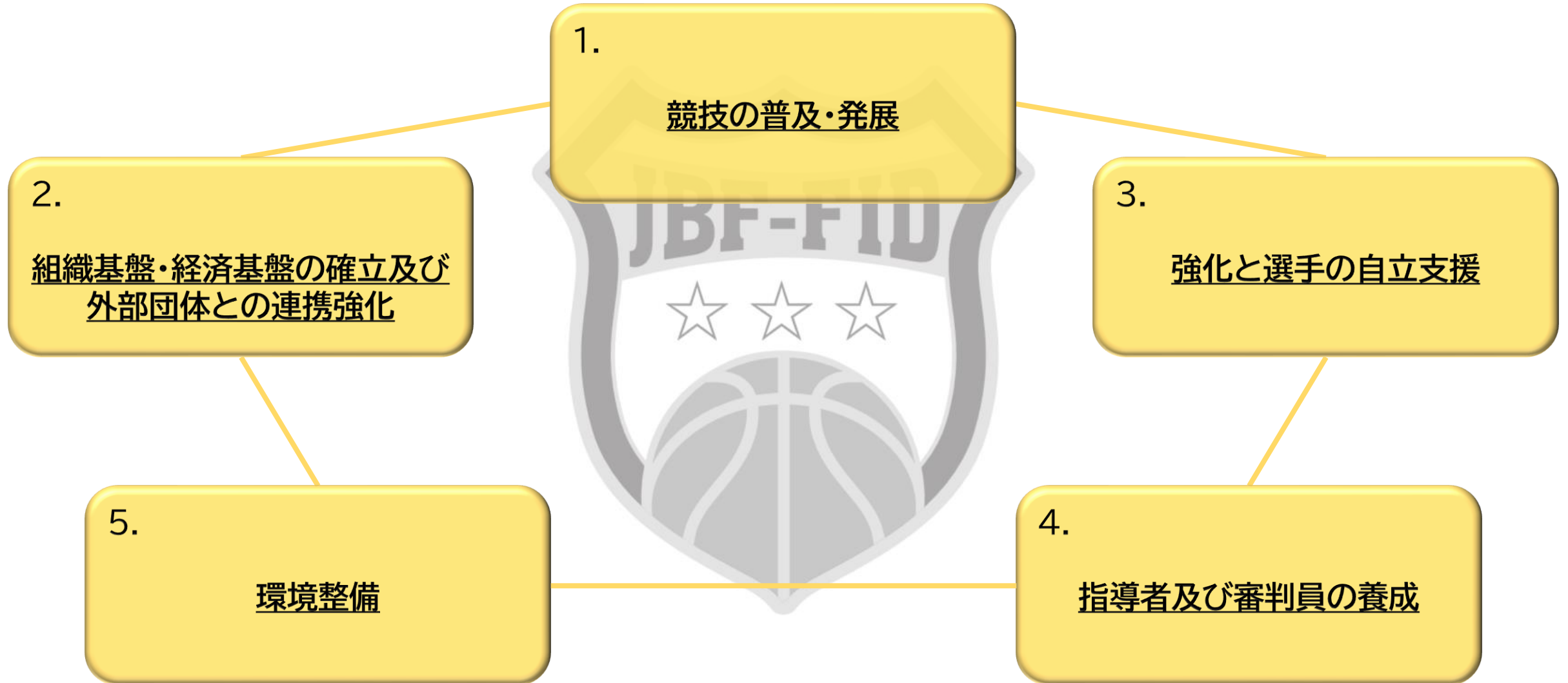
設立

1999年3月21日

法人格
取得

2017年6月21日

< 目的 >

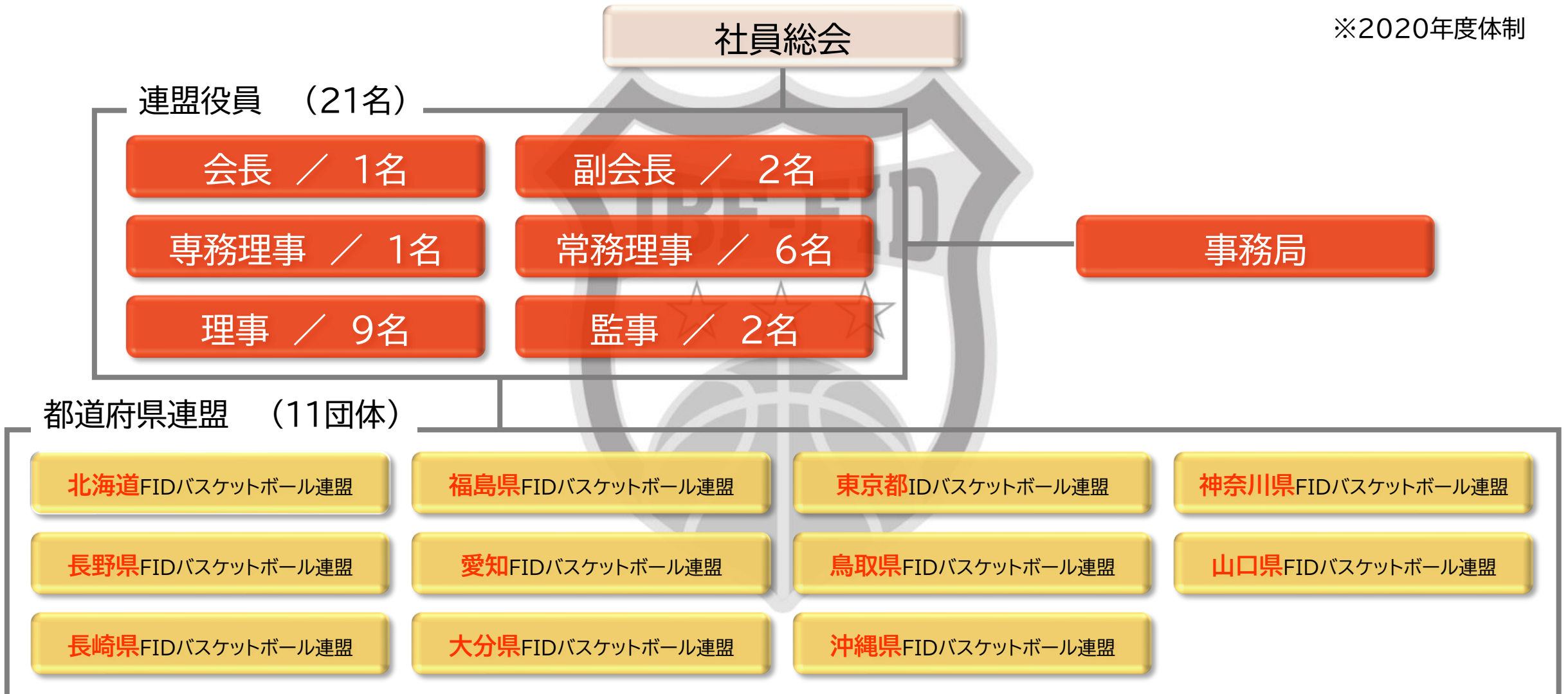


< 事業 >

1. 国際大会への日本代表チーム強化合宿、選手選考、派遣事業
2. 強化及び普及のための講習会の開催、指導者等の養成事業
3. 地域社会に於ける知的障がい者バスケットボールグループの育成連携事業
4. 日本選手権等の大会事業
5. 国際大会の招致及び開催事業
6. 表彰事業

< 組織の構成 >

※2020年度体制



2

< 当連盟を取り巻く環境の分析 >

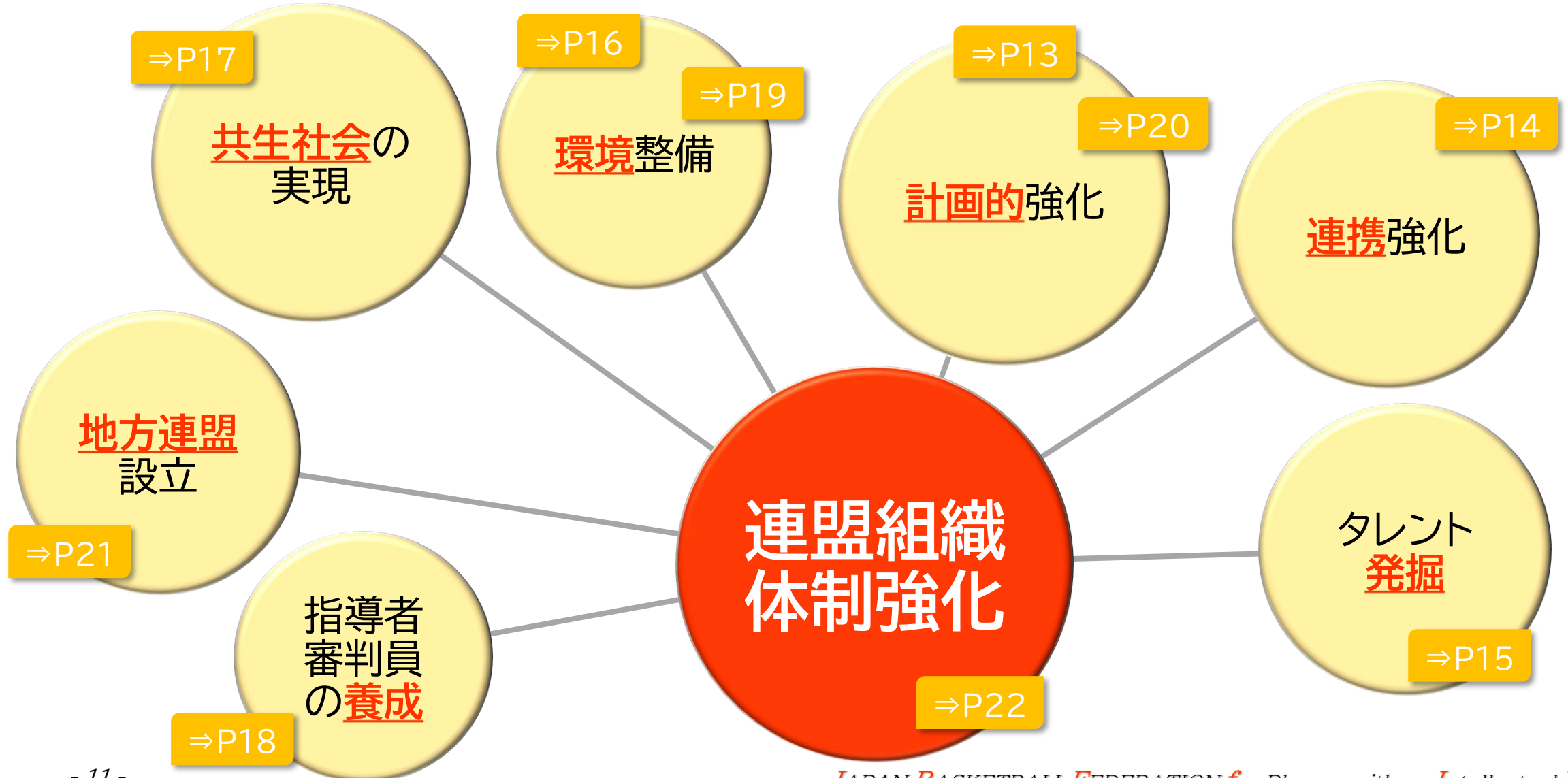
< 当連盟を取り巻く環境（SWOT分析） >

プラス要因		マイナス要因	
内部環境	強み（Strengths）	弱み（Weaknesses）	
	①20年以上の歴史と伝統 ②世界選手権等の開催実績 ③競技力向上（日本代表の歴史） ④全国大会への出場チーム数増加 ⑤上部団体との連携 ⑥渉外努力による支援団体、協賛企業の増加	①専門職の人材不足 ②一部役員への業務負担増加 ③助成金に依存 ④地域との連携希薄（選手強化・育成） ⑤安定しない全国大会開催地	
外部環境	機会（Opportunities）	脅威（Threats）	
	①パラスポーツのスポーツ庁への一本化 ②パラリンピック自国開催による国民の関心 ③上部団体からの期待（アジア活性化） ④世界選手権の開催打診	①組織の仕組みと評価（ガバナンス） ②東京2020後の国民の障がい者スポーツに対する関心 ③コロナウイルス等による活動の損失	

3

< 今後の活動の方向性 >

< 連盟活動の方向 >



4

< 目標設定（アクションプラン） >

－ 2025年度／2030年度 －

< 施策① 強化・育成 >

代表チームの計画的強化

- 2025年度 -

代表チームの蓄積してきた財産をベースに、**個人の特徴、能力**を活かし世界で勝てるチーム作りを行う。

具体的目標

「**2025**Virtus世界選手権」 男子3位・女子優勝
→ メダル獲得合計2個（金メダル1／銅メダル1）

- 2030年度 -

世代交代を含め**日本独自の強化策**でチーム作りを行う。

具体的目標

「**2032**Virtus Global Games」 男子優勝・女子優勝
→ メダル獲得合計2個（金メダル2）
「**2033**Virtus世界選手権」 男子優勝・女子優勝
→ メダル獲得合計2個（金メダル2）



< 施策① 強化・育成 >

所属先企業、クラブチームとの連携強化

- 2025年度 -

- 2030年度 -

選手・スタッフの所属先企業に代表チームの活動参加
に対する理解を得られるように働きかける。

国内各ブロックにて代表チームセレクションを実施し、
地域との連携強化を図る。

< 施策① 強化・育成 >

全国レベルでのタレント**発掘**

- 2025年度 -

アンダーカテゴリー制度を
設け、若年層の選手の発掘
及び育成を図る。

課題

特別支援学校、地域クラブチームとの連携強化
(2020～2024)

- 2030年度 -

強化部内に**U-12・U-15・
U-18**のカテゴリー制度を
確立し、代表チームとの連
携を図る。

課題

日程調整、会場確保、指導者・サポートスタッフ不足
資金調達



< 施策② 普及・養成 >

知的障がい者の誰もが安心安全に競技に取り組める環境の提供及び支援

- 2025年度 -

各ブロック単位で年に3回以上のIDバスケットボールクリニックを実施する。

課題

各ブロックに属する都道府県の活動調査
(2020～2024)

- 2030年度 -

各都道府県連盟単位で年に3回以上のIDバスケットボールクリニックを実施する。

課題

都道府県連盟の活動調査
(2025～2029)



< 施策② 普及・養成 >

一般大会への参加促進等による共生社会の実現

- 2025年度 -

各クラブチームに対して
一般大会への参加を促す。

課題

テストケース実施(2020～2024)

一般の都道府県バスケットボール協会との連携



- 2030年度 -

各クラブチームに対して
一般大会への参加定着化を促す。

課題

一般の都道府県バスケットボール協会との連携

< 施策② 普及・養成 >

知的障がい者の特性を理解した指導者並びに審判員の養成

- 2025年度 -

各ブロック単位で年に2回以上の指導者講習会、審判講習会を実施する。

課題

連盟独自のライセンス認定制度の検討
(2020～2024)

研修プログラムの検討
(専門家による全国統一見解のマニュアル作成)

- 2030年度 -

各都道府県連盟単位で年に2回以上の指導者講習会、審判講習会を実施する。

課題

連盟独自のライセンス規程設置の検討
(“各クラブチームにライセンス取得者が必要”等)



< 施策③ 国内大会 >

知的障がい者の誰もが安心安全に競技に取り組める環境の提供及び支援

- 2025年度 -

- 2030年度 -

複数の全国大会の開催(仮称B1／B2)

アンダーカテゴリーの全国大会の開催検討・実施

課題

会場、競技役員の確保(2020検証 以後継続)

チームの動向調査(2020)

課題

開催検討(2025)

特別支援学校、行政等との調整

開催(2030)

< 施策④ 国際大会 >

代表チームの計画的強化

- 2025年度 -

- 2030年度 -

Virtus世界選手権の開催（2025）

アジア大会の開催検討・実施

課題

開催地、予算、大会規模の検討（2020～2022）

課題

開催へ向けての諸国との連携
（2020～2024）
未開発地への技術、情報等の共有
（2020～2024）

大会開催準備（2025～2029）

大会開催（2031）

< 施策⑤ 組織基盤 >

地方連盟設立

- 2025年度 -

各都道府県連盟
を設立

具体的目標

(2020) 11団体／47都道府県 (設立率23%)



(2025) 47団体／47都道府県 (設立率100%)

- 2030年度 -

各都道府県連盟
の法人化を図る

具体的目標

(2020) 0団体／47都道府県 (法人化率0%)



(2030) 47団体／47都道府県 (法人化率100%)



< 施策⑤ 組織基盤 >

連盟組織体制の強化

- 2025年度 -

- 2030年度 -

運営体制の強化

事務管理の改善

広報事業の改善

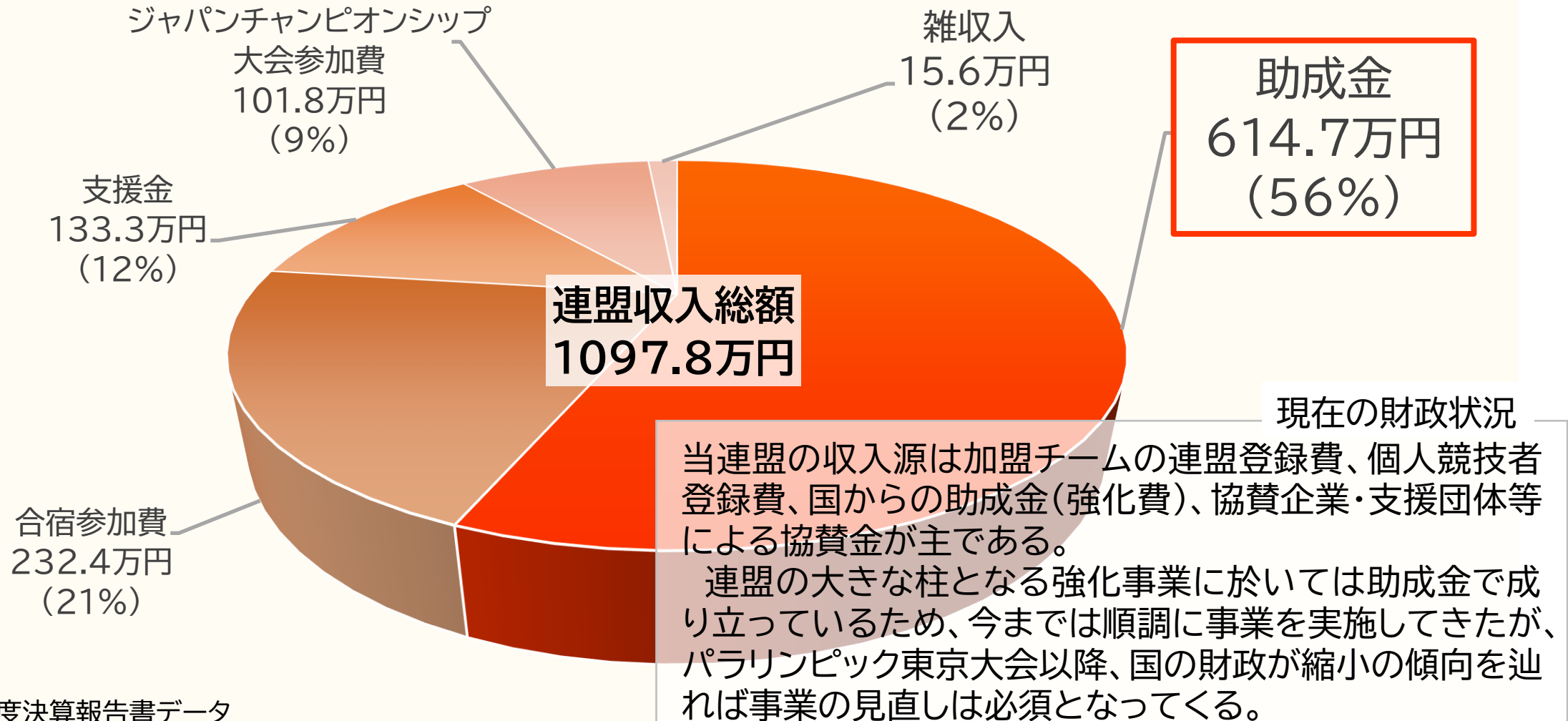
連盟のブランディングの向上
(協賛企業・支援団体の獲得)

ガバナンス、コンプライアンスの取組強化

5

< 財政の見直し >

< 財政状況の分析 >



※平成30年度決算報告書データ

< 財政の見直し >

**助成金依存度の
高い体質改善**

助成金割合
56%

※平成30年度実績

登録金制度の見直し

賛助会員制度の設立

連盟のブランディングの向上
(協賛企業・支援団体の獲得)

各事業につき選択と集中を行い、最大限に事業効果が
得られる健全な財政運営を行えるよう努めていく。